ニコロ・モラレスさん

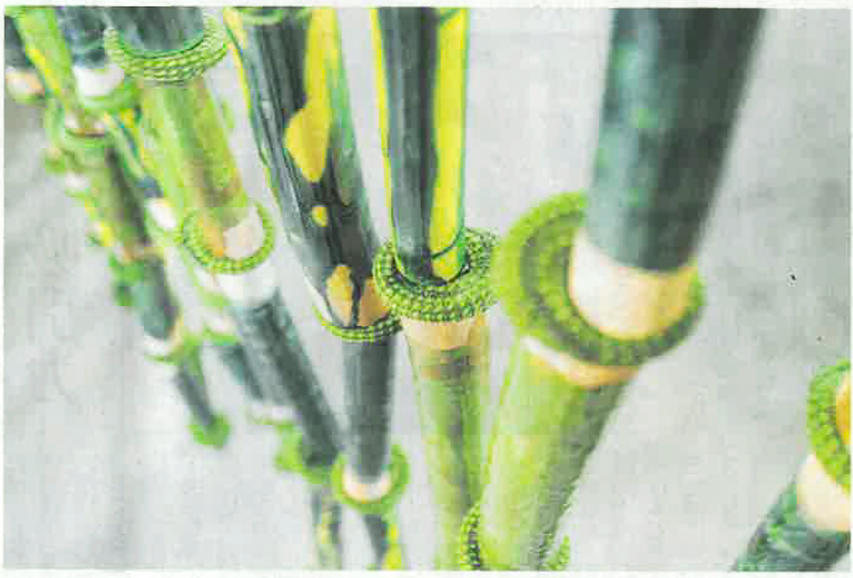
陶芸家

■デザイン■

陽光に爽やか 手製の竹林

陽の光を浴びて、グリーンを基調にしたインテリアコーディネートが爽やかに空間を彩っている。特に目を引く竹林のようなパーテーション「バンブー」を製作したのがニコロ・モラレスさんだ。今春、「色の魔術師」と異名を持つイタリア人デザイナーのパオラ・レンティ氏とのコラボ作品として発表された。

シチリア島を拠点に活動する陶芸家で、「光の色」をテーマに製作した。一見、竹製かと思いきや、竹を模したテラコッタ製の筒状のシリンダーに独自の色を駆使した釉薬を用いて手描きで1本1本を丁寧に仕上げていく。1本のシリンダーは直径約3～5㌢で、長さは約15～35㌢。さまざまな直径と長さのシリンダーで構成するパーテーションは最長幅が3㍍にも及ぶ。縦方向に連なる約15本の連続シリンダーの長さも3㍍だ。総本数が650を超える唯一無二のシリンダーが響き合い人々を魅了する。



多様な焼成に組み合わせの妙

「陶土の厚さの違いや焼成による色相の変化など、各要素の独自性が融合してユニークで他に類を見ないインテリアアートに迫っている」と語る。

何本も連なるシリンダーがぶつかりあうことで生じる破損から保護する緩衝材にパオラ・レンティ社の組紐を用いた。「これまでに見たこともない珍しい仕上がりを探究するモノづくりの姿勢は2人の共通点」。

初めて陶芸に取り組んだのは5歳の時。粘土を手にしたときの感触や自在に扱えることの面白さから陶芸のワークショップに入り浸るようになった。

シチリア島のカルタジローネは田園地帯で9世紀ごろから陶器づくりが盛んだ。原材料はすべて地元の土壌から採掘している。自身の色覚障害については40年以上封印してきたが、色の識別に協力者を得て、色を番号化することで色の世界を捉えることができるようになった。

プロのダイバーでもあるモラレスさんにとって地中海の深海に生息する色鮮やかな魚や海そのものがインスピレーションの源だ。「色の識別はできないが、特別な感性が備わったのだから、自然界の生命力を体感し色を感じ独自の世界観を表現していきたい」。その思いが次の作品へとつながっていく。

（ホームファッションコーディネーター　堀和子）

ニコロ・モラレス　1973年イタリア・カルタジローネ生まれ。幼少期から色覚に障害を持ちながら、地元の陶芸家の工房に通い訓練を受け91年にカルタジローネ芸術・陶芸研究所を卒業。45年間に渡る独創的な陶芸スタイルを誇る。数年前からパオラ・レンティ氏とのコラボをスタート。2018年イタリアの卓越した職人に授与される賞「MAM－Maestro d'Arte e Mestiere」を受賞した。